

「夏」特集



【相馬野馬追】

福島県 南相馬市
(一部の催しは相馬市において開催)
7/23(土)・24(日)・25(日)
●雲雀ヶ原祭場地(南相馬市原町区)ほか



**威風堂々！
壮大な戦国絵巻を体験**
国の重要無形民俗文化財に指定されている相馬野馬追は、一千有余年の歴史を誇る日本を代表する伝統行事です。先祖伝来の甲冑に身を固めた500余騎の騎馬武者たちが、勇壮華麗にして豪華絢爛な戦国絵巻を繰り広げます。是非、相馬野馬追にお越しいただき、壮大な戦国絵巻を体験してください！

●料金
一般自由席 / 1,000円 (当日券)
【甲冑競馬、神旗争奪戦が観覧できます】
※中学生以下入場無料
※24日に雲雀ヶ原祭場地にて開催する甲冑競馬・神旗争奪戦のみ有料
相馬野馬追実行委員会事務局
☎0244-22-3064 又は
☎0244-24-5263
FAX 0244-22-3100
http://soma-nomaoi.jp

皆さん初めまして！
南相馬市観光交流課の深野と申します。相馬野馬追の出場経験のある私から、野馬追の見どころをご紹介します。相馬野馬追は甲冑や馬に目が行きがちですが、騎馬武者が背負っている先祖伝来の旗指物にも是非注目していただきたいと思ひます。色や模様も様々で見応えがあると思ひます。特に神旗争奪戦の際には、騎馬武者と旗指物が入り乱れての圧巻な光景となりますので、是非ご覧いただきたいと思ひます！



アクセス
【車】常盤自動車道 / 三郷IC～南相馬IC(約3時間)
【車】東北自動車道 / 浦和IC～二本松IC～一般道(約5時間)
【東北新幹線】東京～仙台(約2時間)
【高速バス】仙台～南相馬(約2時間)

【牛の角突き】

新潟県 小千谷市
5/3(土)・6/5(日)・7/3(土)・8/14(日)・
9/4(日)・10/2(日)・11/6(日)
正午～午後3時頃
●小千谷闘牛場
(小千谷市小栗山2453)

**1トンの巨体が繰り広げる
大迫力の伝統行事**
「ヨシター」という勢子の掛け声が飛び交い、牛同士がぶつかり合う。迫力満点の牛の角突きは、江戸時代から続く地域の伝統行事として毎年5月～11月まで開催されます。全国各地の闘牛とは異なり、越後の牛の角突きは原則として引き分けで終わらせず、その理由は神事であるためと、闘牛の闘争心を保つためとも言われています。巨体ぶつけ合っている闘牛を引き離すため、飛びかかっている鼻を押しさえる勢子の妙技や勇姿も見ものです。



●料金
一般席(屋根なし) / 1,000円
特別席(屋根あり) / 2,000円
(当日券のみの販売)
※中学生以下無料※雨天決行
小千谷観光協会 ☎0258-83-3512
http://www.tsunotsuki.com/
(闘牛会HP)

アクセス
【車】関越自動車道 / 横馬IC～小千谷IC(約3時間)
【上越新幹線】東京～長岡(約1時間50分) 【上越線】長岡～小千谷(約20分)
【シャトルバス】小千谷駅前⇄小千谷闘牛場 開催日の11:35発(約20分)

【ひまわり畑】

北海道 名寄市
7月下旬～8月中旬
●名寄市一帯
●道立サンピラーパーク
(名寄市字日進147)

**市内一円に咲き誇る
見渡す限りのひまわり畑**
ひまわりの開花が名寄の夏の訪れを告げ、黄色いじゅうたんが、広大な大地を彩ります。市内一円で、およそ50ヘクタールのひまわり畑を見ることができ、その数は500万本を数えます。また、道立サンピラーパークのひまわり畑は、小高い丘の上にあり、ひまわり越しに田園風景が見渡せ、雄大な景色を眺める事ができる他、夜にはライトアップもわれ幻想的なひまわり畑を見ることが出来ます。



アクセス
【飛行機】羽田空港→旭川空港(約1時間40分) 羽田空港→新千歳空港(1時間半)
【車】旭川市内から約2時間、札幌市内から約4時間、名寄駅から10分
【北海道特急】旭川～名寄約1時間、札幌～名寄約2時間30分

●料金 無料
なよろ観光まちづくり協会
☎01654-9-6711
http://www.nayoro-kankou.com

まだまだいっぱい！夏の催し



裏磐梯の広大な自然を
楽しもう！

カヌー体験

アクセス
【東北自動車道】浦和IC～郡山IC～猪苗代IC～一般道(約3時間)
【東北新幹線】東京～郡山(約1時間20分)
磐越西線 郡山～猪苗代(約35分)
【バス】猪苗代～裏磐梯(約30分)

福島県 耶麻郡北塩原村

太陽の光が吸い込まれ、色を変えて輝く静かな湖でのんびり湖上トレッキング。夏の裏磐梯ならではの楽しみ方で、湖面をス～スイとアメンボのように移動する感覚は病みつき間違いなし！地元のガイドが教えるので、初めてでも安心して、安全なカヌーツーリングを楽しむことができます。湖上から見る景色は格別で、普段見ることのできない裏磐梯の絶景に出会えます。
●料金 各ガイド団体により異なる(半日一人約2,000円～)
裏磐梯観光協会 ☎0241-32-2349

日本の夏の風物詩 花火大会

詳しくは各自自治体へお問合せください

福島県 耶麻郡北塩原村

裏磐梯火の山まつり 7/21(土)

松原湖第一駐車場(耶麻郡北塩原村)
裏磐梯の夏を象徴するイベント。磐梯山噴火による犠牲者の慰霊祭として開催される灯籠流しはとても幻想的な雰囲気です。また、松原湖上から打ち上げられる花火は圧巻です。
裏磐梯観光協会 ☎0241-32-2349



青梅市納涼花火大会

東京都青梅市

青梅市納涼花火大会 8/6(土)

永山公園グラウンド(青梅市本町217)
青梅市の夏を代表するお祭り。スターマインや尺五寸玉のほか、大きなナイアガラが見ものです。比較的近い場所から花火を見られるのも特徴です。
裏磐梯観光協会 ☎0428-24-2481

新潟県小千谷市

おぢやまつり 8/19(金)～21(日)

東栄～本町
3日間にわたり繰り広げられる小千谷市最大のお祭り。
●19日大民謡流し ●20日からくり万灯パレード、花火大会 ●21日からくり万灯パレード、盆踊り大会
小千谷観光協会 ☎0258-83-3512

山梨県南都留郡忍野村

忍野八海祭り 8/8(日)

忍野中学校(南都留郡忍野村忍草1666-36)ほか
村の一大イベントである忍野八海祭り。朝市から花火大会まで、一日を通して様々なイベントが行われます。
忍野村観光協会 ☎0555-84-4221

片貝まつり(浅原神社秋季例大祭)

片貝町 9/8(土)～10(日)

●8日伝統祭り屋台曳き回し ●9日・10日奉納大煙火(世界一の大きさを誇る正四尺玉打上)
浅原神社への奉納煙火は江戸時代中期以前からの伝統です。思いを込めて花火を奉納します。
片貝町煙火協会 ☎0258-84-3900

やってみよう！見てみよう！

忍野村 親子田舎体験 8/18(土)・19(日)

富士の麓・山梨県忍野村で夏休みの思い出に、親子で川遊びやほうとう作り、日本一甘いと言われるトウモロコシの収穫などを体験しませんか。



●行程 18日＝四季の杜おしの公園(午後1時集合)→農業・食育体験(トウモロコシの収穫)→民宿 19日＝忍野八海散策・清流川遊び→ほうとう作り体験→四季の杜おしの公園(午後3時解散)
●場所 山梨県南都留郡忍野村 ●定員 50名(申込順)
●費用 大人11,500円、小学生11,000円※食事はツアー代金に含まれています。詳細は申込書参照
●申込 申込書(忍野村観光協会 http://www.oshino.jp/ からダウンロード可)を同協会へメール又はfaxで。
●連絡先 忍野村観光協会 ☎0555-84-4223
忍野村観光協会 ☎0555-84-4221

第4回 有森裕子 なよろひまわりリレーラン 8/7(日)

オリンピック銀メダリストの有森裕子氏を招いて、4人1組のリレー形式で走るランニングイベント。タイムを事前に申告し、実走タイムと誤差が少なかったチームが優勝となるため、ランニング初心者の方にも優勝のチャンスがあります。ひまわり畑等を周回するコース(一人あたり2.9km)で、ひまわりを眺めながら楽しく走りましょう！



●開催場所 名寄市日進(なよろ健康の森陸上競技場)
●募集人数 先着100チーム(400名)
●募集方法 申込書を事務局まで郵送、又はインターネットより申込 http://www.nayoro-run.jp/relayrun/
●名寄市役所生涯学習課 ☎01654-2-2218

松原浩写真展 7/4(日)～15(金) 「小千谷の四季～ここに映った風景」

※土日を除く。初日は午後1時から
杉並区出身の作者が、小千谷の四季の美しさとはかなさをテーマにした、写真と文で綴る作品40点を展示します。
●会場 区役所2階区民ギャラリー
●7/11(月)10時～区役所分庁舎4階会議室にて作者によるスライド・トーク開催。(参加無料)先着40名
小千谷市地域振興課 ☎0258-83-3556



同時開催
田舎暮らしに興味のある方、移住をお考えの方向けの田舎暮らし相談会を開催します。
①7月4(日) ②7月15(金) 午後1時～午後5時
●会場 区役所2階 区民ギャラリー前

全国連携 交流自治体情報紙『てくてく』～創刊のご挨拶～

杉並区長 田中 良
杉並区は、国内10の自治体と災害時支援や教育、スポーツなどの様々な分野で交流しています。交流自治体にはお祭りや自然、特産品や食べ物など、杉並にはない皆さんの魅力があり、もっと区民の皆さまに知っていただきたいと考えていました。そこで、情報紙『てくてく』を年に2回発行し、杉並から交流自治体の様々な魅力を発信していくことといたしました。この情報紙に興味をお持ちいただけましたら、是非とも現地に足を運んでいただき、交流自治体の魅力に触れていただきたいと思います。

